



MIYOSHI  
CENTRAL HOSPITAL

第42号

2024年5月

市立三次中央病院だより

# 花みずぎ



新しく43名の仲間が増えました!

## 基本理念

私たちは地域の皆様から信頼され  
親しまれる病院を目指します





病院長雑感



院長 水野 昌  
病院長 永澤 昌

■新入職員研修中

医師18名、看護師20名、臨床検査技師1名、臨床工学技士1名、理学療法士2名、診療情報管理士1名の合計43名のフレッシュな仲間が入社してくれました。早速、4月1日より新入職者研修が始まり、プロフェッショナル意識を持つての現場対応の実践能力を身につけていくていっています（表紙参照）。

■病院建替計画進行中

病院は、1994（平成6）年に現地に新築移転してから30年が経ちます。医師数は移転時の約40名から今年度で約90名にまで増えていますが、それに伴い医療機能もどんどん拡充しています。今年度ではロボット手術も行えるようになります。

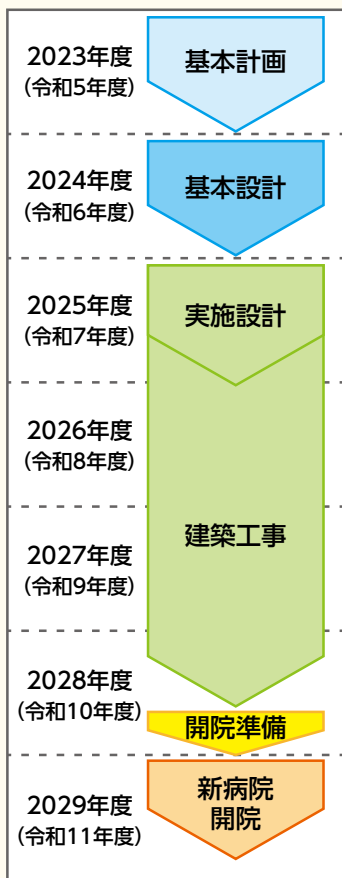
医師・看護師、他医療スタッフの増員と機能拡充により施設の狭隘化が顕著となり、トイレの使いにくさ、廊下の移動困難、患者説明場所不足などが患者満足度調査での不評項目となっています。また、休憩スペースや更衣室がない職員もいる状況

市立三次中央病院

5年後の2029（令和11）年での新病院開院を目指して、病院建替計画が進行しています。今年度は基本設計を行います。この4月上旬に設計業者が決まったところですので（左図）。



新病院イメージ図



新病院建築工程表

■療養環境改善中

患者満足度調査、投書での要望の強かった売店拡充が昨年12月、病棟でのWiFi環境がこの3月で整備できました（裏表紙参照）。多くの市民の皆さんと職員の声の後押しになりました。これからも多くの声をお寄せくだされば幸いです。

■これからの高齢者医療

2040（令和22）年ころまで高齢医療の需要が増える見込みです。たとえば、骨折、脳卒中、急性心不全が増えていくことが見込まれています。備北地区は病院が少ないこともあり、これらの疾患の救急・急性期医療の提供をほぼ当院が担うこととなります。加えて、がん診療の更なる充実も求められています。新病院への期待も大きく、広島県の保健医療計画（第8次）でもこのことが明文化されます。

また、地域では交通手段を持たない独居高齢者が増えています。これからは、病院から地域へ出ていく

ことが求められることとなります。その一環として歯科診療車をこのたび導入しました。（6頁参照）  
また、歯科診療車とは別に、備北地区には移動診療車が一台あり、2012（平成24）年より庄原市を中心に運行しています。しかし、経年劣化により、修理をすることが多くなっています。  
（県資料を参照してください）



<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/111107.pdf>

三次市でも今後は、地域診療所の医師の高齢化により、閉所せざるを得ないことが起こり得ます。移動診療車が活躍する時期はそう遠くないと考えられ、移動診療車の更新や増車も検討されているところです。

■医療・介護従事者の確保が急務

若い医療・介護従事者の確保、育成が行われないと、これからの皆さんの医療・介護をまかなえなくなります。

地域では人口減少が進んでいますが、医療・行政・市民の皆さんが一体となって、地域の若い方々を確保、できれば増やす努力をしていくことが必要です。できなければ、5～10年後の担い手不足で困るのは今いる私達になります。

## 新任挨拶



麻酔科医長  
原 木 俊 明  
はら き とし あき

令和6年2月に麻酔科医長として着任いたしました原木俊明と申します。平成13年に広島大学を卒業し、広島大学医学部附属病院（現広島大学病院）、安佐市民病院（現北部医療センター安佐市民病院）、土谷総合病院、広島総合病院を経て、この度当院で勤務することになりました。安佐市民病院では救急医療や集中治療、土谷総合病院では心臓血管麻酔、広島総合病院ではペインクリニックについて、それぞれの指導者の下、研鑽を積んで参りました。実を申しますと当院で働くのは初めてではなく、平成26年1月から3月にかけて非常勤医師（麻酔応援）の立場で合計11回ほどこちらにお邪魔させていただいたことがあります。10年ぶりに、そして今回は麻酔科の責任者として当院で働く機会をいただいたことは大変感慨深いものがあります。

患者さんにとって手術や麻酔は非日常であり、不安や心配がつきないと思います。皆さんが安心して手術に臨むことができるように安全な周術期管理を心掛けて参ります。よろしくお願いたします。



産婦人科医長  
関 根 仁 樹  
せき ね ひと き

4月から熊谷正俊先生の後任として産婦人科医長に着任いたしました。平成20年に広島大学を卒業後、呉共済病院、都立墨東病院、日本医科大学付属病院、東広島医療センター、広島大学病院などで経験を積んでまいりました。特に広島大学病院では、腹腔鏡や子宮鏡、ロボットを用いた手術の導入と拡充に携わらせていただきました。この経験を活かし、市立三次中央病院でも、より少ない負担で治療を受けられる手術の提供に努めてまいります。また当院は周産期医療においても広島県北の地域周産期母子医療センターとして重要な役割を担っています。近年の晩婚化に伴い、周産期母体合併症のリスクが増加している中、センターとしての役割を果たし、地域の命の誕生をサポートし、安心して出産できる環境づくりに貢献してまいります。がん治療や骨盤臓器脱など、女性特有の疾患に対する様々な手術療法についても、皆さんの不安や疑問に応えていきたいと考えております。備北地域の産科医療、婦人科医療に貢献できるよう、また地域の皆さんに信頼される医療を提供できるよう努めて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願申し上げます。



事務部長  
細 美 寿 彦  
さい み かず ひこ

このたび、4月1日付で事務部長に就任しました細美寿彦です。病院業務は初めての経験であり多少戸惑っておりますが、与えられた責務を果たせるように一生懸命努力してまいりますので、よろしくお願いたします。

現在、病院や医療をめぐる環境は厳しさを増しつつあると感じていますが、「人生100年時代」と言われるなか、この地域で暮らす皆さんが住み慣れた地域で安心して暮らしていることができるよう、地域の医療機関・関係団体の方々と更なる連携を図っていく必要があります。それと併せ、より良い医療を提供するためには、職員自身が生き生きとやりがいを感じられる働きやすい職場環境の整備も重要です。

これまでの取組の背景や経緯を把握・尊重しつつも、より良い案や取組を考え、見直しにチャレンジする。そのような柔軟な発想を常に心がけ、当院の基本理念である「私たちは地域の皆様から信頼され親しまれる病院を目指します」のもと、これからも当院が、地域の皆さんに健康と安心を提供し、常に信頼される病院であり続けられるよう、多くの病院スタッフと一緒に取り組んでまいりますので、ご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



薬剤科医長  
山 口 伸 二  
やま ぐち しん じ

このたび、薬剤科医長に就任いたしました山口伸二です。私は大学卒業後、製薬会社で3年間勤務し、1994年4月から薬剤科で勤務しております。当院は備北二次医療圏の中核病院として、救急医療、小児24時間救急体制や周産期医療、がん診療連携拠点病院や災害拠点病院等の役割を担っています。2014年1月に外来化学療法センター（外来での抗がん剤治療）、2018年4月にリウマチ・膠原病科、同年10月に血液内科が開設され、新しい治療が開始される一方で、患者さんのお薬の種類も多岐にわたっています。我々、病院薬剤師は患者さんにお薬を使用する目的・適正な使い方・使用上の注意等を分かりやすくお伝えし、充分なお薬の効果を得る事と副作用の回避を目的として、日々外来や病棟で薬剤指導を行っています。

本日はこの場をお借りして、入院される患者さんへお願があります。入院後もしっかりつけ医院のお薬を継続していただくことがあります。お薬の名称や規格、用法・用量を正確に把握し、飲み忘れを防止するために、お薬手帳の内容がとても重要となってきました。入院時には最新の薬剤情報（お薬シールや説明書）であるかご確認いただきお持ちください。

市民の皆さんへ、今後もより安全・安心な医療の提供をめざし、薬剤科スタッフ一同（薬剤師14名、薬剤助手4名）、全力で努めてまいりますので宜しくお願いたします。

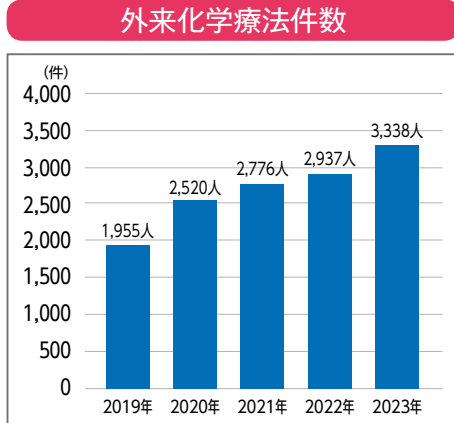


連載 がんの治療 ③③

消化器外科 医長 岡野 圭介  
おかの けいすけ

外来化学療法センター拡充・移転

近年、がんに対する化学療法は進歩してきており、従来の殺細胞性抗がん薬の他、分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など、さまざまな薬剤が使用されています。また、がんは高齢者に多いですが、高齢者の増加、特にがん治療に耐える体力のある元気な高齢者が増え、治療件数は増加してきています。



治療を入院でなく外来で行うことで、患者さんの経済面での負担が少なくなる、ご家族の支えの下で安心して治療を受けられる、仕事を継続しながら治療を進めることができるなどのメリットがあります。

当院では2006年8月から外来

で治療が受けられる外来化学療法室をスタートしました。当初は、救急診察室を平日日中のみ間借りする形で、6床で運用していました。その後、外来での実施可能な治療が増えてきたことから、2014年1月から専用外来化学療法センターとして移転し、10床に増床しました。しかし、その後も治療件数は増加し、ベッド稼働率は100%を超え、センターのベッドのひっ迫は大きな問題となりました。



現在、病院建替えに向けて準備が進んでいます。このベッドの状況で数年後の建替えを待つことはできず、センター拡充・移転の話が持ち上がり、コロナ禍以降運用が停止していた5階東側の地域包括ケア

棟の一部をセンターとして利用することになりました。2024年2月13日に、新しい外来化学療法センターがスタート、ベッド数は12床に増床し、5階からの見晴らしの良い明るい治療室に生まれ変わりました。

唯一の問題点は移動距離の長さです。患者さんは、まず1階のセンターの採血室で採血を済ませ、そこから各診療科に回って主治医の診察を受けます。診察の上で主治医が「本日治療が可能」と判断してから、今度はエレベーターで5階治療室に上がっていただきます。同時に投与薬剤が1階の薬剤科で調製され、5階の化学療法室に運ばれます。薬剤が届き次第、治療を受ける流れとなります。

以前は化学療法中に他科の受診を済ませるということもできていましたが、今は点滴をしながらエレベーターを使用する際の長距離移動となり、点滴の漏れやスタン드의転倒などのリスクが伴うため、難しくなりました。患者さんにはご不便をおかけしますが、より安全ながん治療の提供のため、ご協力をお願いします。何かお気づきの点があれば遠慮なくスタッフ等にお伝えください。

内視鏡センターのリニューアル！

2013年11月に内視鏡センターを開設して、10年が経過しました。当センターでは内視鏡を駆使した病気の診断や、早期がんについては内視鏡的治療を行っています。また、出血性の胃潰瘍や食道静脈瘤などによる出血などに対する緊急内視鏡的治療も行っています。

検査や治療を受ける方が増え、狭くてご不便をおかけしていましたが、この度、内視鏡センターの一部を改装し拡大しました。新しく改装された部屋は大腸検査を受けられる方の前処置室となり、車いすの方も利用できるようにトイレを増設しました。また、胃カメラを受ける方の喉麻酔も今までのスペースより広くなり、ゆったりとした環境で胃カメラや、大腸検査の前処置が受けられるようになりました。



多目的トイレ



診察室

引き続き検査や治療を受けられる方に安心・安全な検査・治療が受けただけのように取り組んでまいります。

外来師長(治療部)

やぎゅう ともか 柳生 智香



花粉症の患者さんは年々増加しており、いまや国民の4割超が花粉症とされています。さらにスギ花粉については日本特有のもので、いわば国民病とも言えます。

花粉症による症状と例えば、鼻汁、くしゃみ、鼻づまりですが、これら以外にも生活の質の低下、医療費への影響、労働生産性の低下など、花粉症が国民生活に及ぼす甚大な影響が明らかになっており、2023年には日本政府も国をあげて花粉症対策の施策を行っていくことを表明しています。

はじめに



花粉症(スギ・ヒノキ)について

耳鼻咽喉科 院長

おおばやし 敦人

政府の花粉症対策3本柱(令和5年5月30日花粉症に関する関係閣僚会議決定)

発生源対策

- スギ人工林の伐採・植替え等の加速化
- スギ材需要の拡大
- 花粉の少ない苗木の生産拡大
- 林業の生産性向上及び労働力の確保

飛散対策

- スギ花粉飛散量の予測精度向上支援
- スギ花粉の飛散防止

発症・曝露対策

- 花粉症の治療：治療薬増産、研究開発等
- 花粉対策に資する認証制度や製品の普及・啓発
- 花粉症予防行動の周知、企業等の取組推進



花粉飛散状況について

スギ・ヒノキ花粉は前年の夏が暑くなると飛散量も多くなる一方、大量飛散の翌年は木の勢いが弱まる性質もあります。ただ、近年はそういった傾向にかかわらず飛散量は多めで、また飛散開始時期も早まり、治療期間も長期化している傾向があります。

治療について

①抗原(花粉)の回避

マスク、めがねなどで花粉の体内への侵入を防ぐ、飛散が多い日は外出を控えたり、洗濯の外干しをさける、などの対応があります。これらの対応をすることで、発症や重症化を防ぐことができます。

②薬物療法

内服薬、点鼻薬、貼布剤があります。最近では同効の薬を市販薬として購入もできますが、医療機関を受診すると、より多くの薬から、症状や副作用(眠気など)、患者さんの希望にあわせ薬を選択することができ、重症化を防ぐことができます。飛散開始日あるいはその1週間前から治療を開始すべきとされています(初期療法)。また、最近では適応や薬価の問題はありますが、重症花粉症の患者さんに

対しては抗IgE抗体製剤という薬もあります。

③手術療法

薬物治療では十分効果が得られない重症患者さんを選択されます。特に鼻閉症状が主な患者さんには、短期間で治療効果が期待できます。

④アレルゲン免疫療法

その他の治療と異なり、唯一、根治治療となりえる治療です。以前は皮下注射で行われていましたが、最近では舌下に薬を投与する方法(舌下免疫療法)で行われています。現在はスギ(とダニ)アレルギーのみに対しての治療薬で、副作用(アレルギー反応)や治療期間(少なくとも3年間)などの問題はありますが、5歳以上から始められ、症状の改善度も高く、今後普及する治療方法です。

おわりに

花粉症は症状以上に日常生活に影響を及ぼしています。普段の生活から対応することや初期療法にて重症化を防ぐことが重要となります。治療についてはかかりつけ医や耳鼻咽喉科にてご相談いただければと思います。

# 歯科診療車導入

## 作木町での 歯科移動診療を開始します

歯科口腔外科主任医長

佐渡 友浩

みなさんは、「歯科診療車」をご存知ですか？

歯科診療車とは、歯科医師や歯科衛生士が乗って移動し、遠隔地やアクセスの困難な地域に歯科医療を提供するために設計された専用車両です。この車内には、専用の椅子や機材が乗っており、様々なお口の治療や予防活動などを行うことができます。

歯科疾患は早期発見が重要であり、定期的な診察により口の健康状態を維持することができます。

また、様々な研究から、お口の健康は、全身の健康にも密接に関連していることがわかってきました。歯周病や虫歯などのお口のトラブルは、誤嚥性肺炎や糖尿病、心臓や脳などの病気にも影響を及ぼすことがあります。また、合わない入れ歯を使い続けていると、気づかないうちに栄養がかたよったり、転倒しやすくなることもあります。

しかし、備北地域では高齢化や人口減少が進み、特に作木町では、遠くで病院に行けない、交通手段が限られているなどの理由で、定期的に歯科治療を受けることが難しい方々が増えてきています。

そこでこの度、市立三次中央病院に歯科診療車が導入されることとなり、2024年5月23日(木)から作木町への歯科移動診療事業を開始することとなります。



ました。場所は作木福祉保健センターで、第2・第4木曜日の午前となります。今後、身近な場所でお口の健康をサポートすることに、健康な生活を送るための基盤を築くことができるようになるのではと期待しております。

また、昨今、豪雨や地震など、過去に例を見ない規模の自然災害も増えてきております。

万が一このような緊急事態が起きたとしても、歯科診療車が被災地や緊急避難所に駆けつけ、歯科治療や応急処置を提供することで、被災者のお口の健康を維持し、全身の健康状態の維持に貢献することもできます。

作木町における歯科医療のアクセス改善や健康の地域格差の縮小、緊急事態の対応に至るまで、重要な役割を果たせるよう、今後この地域の将来を見据えて、みなさんが住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らせる一助となりますよう務めてまいります。

なお、予約受診のみとなりますので受診希望の方は左記までご連絡ください。

【お問い合わせ・受診予約】

医事課

TEL(0824)650101

FAX(0824)650159



## 市民公開講座「脳の病気を知らう」を開催しました

令和6年1月22日（月）に三次グランドホテルにて、がん治療および地域医療の普及・啓発を目的に市民公開講座を開催しました。

市民公開講座は、がん等に関する医療情報などを広く地域の皆さんに伝えるため毎年実施していましたが、近年は新型コロナウイルス感染症予防のため、開催を見合わせていたので、4年ぶりの開催となりました。

第一部は、当院の脳神経外科の浜崎理主任医長が、「脳腫瘍について」と題して講演しました。第二部は、広島大学大学院医系科学研究科脳神経外科学の堀江信貴教授に、「脳卒中の脅威から身を守る ―あなたと家族を守る知識―」と題してご講演いただきました。

当日は、約160名と多くの市民や医療福祉関係者の皆さんにご参加いただきました。市民の方からは、「とても分かりやすかった。脳卒中は予防が大事と再認識できた。家族にも話をしてみようと思う。」など多くの感想が寄せられました。

今後も地域の皆さんが求める知識や情報を提供できるよう、市民公開講座を開催していきますので、ご参加の程よろしくお祈いします。



## 災害派遣医療チーム ディーマット DMAT

～能登半島地震での活動記録～

私たち市立三次中央病院災害派遣医療チーム

(DMAT)は、1月1日に発生した能登半島地震のため、1月21日から27日まで、石川県鳳珠郡能登町へ派遣されました。派遣されたのは、医師、看護師、臨床工学技士、薬剤師から構成される6人のチームで、病院所有の緊急車両と救急車の2台を使用し、被災地に向かいました。被災地に近づくにつれて崩落した道路や倒壊した家屋が増えていき、地震被害の大きさを物語っていました。

現地に到着すると、電気は復旧していましたが、水道や下水道などのライフラインは復旧しておらず、平時の生活はまだまだ戻ってきていませんでした。我々が参集した本部には広島県からだけでなく、中四国から多数のチームが派遣されておりました。我々のチームは各県のチームと協働しつつ、本部業務や現場活動など、医療行為に限りない多岐にわたる活動を行い、被災地の支援に全力で取り組みました。活動中に大雪に見舞われましたが、幸い事故もなく、また体調を崩すメンバーもおらず無事に活動を終了できました。

災害大国である本邦では、今後も大規模災害が起こる可能性は十分あり、DMATのニーズは高まっていくと思われます。地域の災害拠点病院としての備北地域の医療を支えることはもちろんですが、全国規模の災害に対しても支援ができるよう、今後も訓練と準備を行っていきたいと思います。

活動期間前後で、膨大な準備を支援いただいた方々や、我々が不在の期間に病院業務を交代していただいた病院スタッフの皆さんに、この場を借りて感謝の言葉を申し上げます。本当にありがとうございました。



西田 周代  
にしだ ちかよ

手術看護認定看護師  
特定行為研修修了  
に  
し  
だ  
ち  
か  
よ

この度、手術看護認定看護師の資格取得と特定行為研修修了した西田周代です。突然ですが、皆さんは「周術期」という言葉をご存じでしょうか？周術期は、手術が行われる前の準備時期である「手術前」、手術医療が提供される「手術中」、手術終了後の回復期に当たる「手術後」を含む期間のことを言います。手術



日本手術看護学会HPより

室看護師は、手術室だけでの仕事のように思われがちですが、手術が必要と決まった手術前から手術中、手術後と、早期回復に向かえるように外来・病棟看護師と一緒に継続的な看護を行っています。手術看護認定看護師は、この周術期において患者さんとご家族の安心・安全を守り、手術進行を円滑に進めるために最新の知識、技術を提供する役割を担っています。

また、特定行為(特定行為とは、あらかじめ医師が定めた手順書に準じて、看護師が診療の補助を行うこと)研修も修了しました。しかしながら、特定行為の麻酔管理は難しく、患者さんへの負担が大きい手技もあるため、研修を修了したからといってすぐに行えるわけではありません。そのため、麻酔に関する知識をより深めながら、麻酔科医師と連携して実践に向けて取り組んでいます。そして更に、患者さんに近い存在として寄り添いながら、専門性の高い看護につなげていきたいと思っています。

最後に、手術後の合併症を予防するためには、内服の管理や禁煙など、手術前からの準備がとても重要になります。手術に挑む準備を患者さん・ご家族と一緒に整え、自宅退院に向けてサポートしていきますので、周術期での不安やお困りごとがありましたら、いつでもお声掛けください。

### 入院病棟でWi-Fiが使用できるようになりました

入院患者さんが快適に過ごせるように、3月1日から、3階病棟から5階病棟で、無料のWi-Fiが使用できるようになりました。

なお、外来玄関ロビー付近では、今までどおりFREESPOT協議会が提供する公衆無線ネットワークのWi-Fiがご利用いただけます。



### OPEN! 生活彩家ポプラ (旧レストラン) 跡地



▶ 営業時間：8時～17時  
▶ 定休日：土・日・祝

広々とした店内に、日用品からお弁当、お菓子等多数揃えております。

イートインコーナーもありスマホ決済、公共料金の支払いもできます。  
※ATMはございません



### 第14回みよしぶどう友の会 初夏のウォーキングデー参加者募集

みよしぶどう友の会では、『初夏のウォーキングデー』を開催します。ウォーキングで健康づくり、仲間づくり、そして糖尿病などに関する知識を深めてみませんか？  
会員でなくても健康に興味・関心のある方、大歓迎です！  
ぜひ、お気軽にご参加ください!! (要申込)

- ◇日 時：6月1日(土) 9時30分～11時(雨天決行)
- ◇集合場所：市立三次中央病院 健診センター2階 講堂
- ◇内 容：ノルディックウォーキング(みよし運動公園内)・血糖測定(運動前後)・ミニレクチャー
- ◇参加費：500円 ◇申込方法：電話でお申し込みください ◇申込期限：5月20日(月)



【お申し込み・お問い合わせ】 医事課 医事係：TEL(0824)65-0101/FAX(0824)65-0159/Email:iji@city.miyoshi.hiroshima.jp